

企画書（案）
浜松市美術館開館 55 周年記念
足立美術館展—横山大観と近代日本画—

1 開催概要

足立美術館は、実業家・足立全康（1899-1990）が蒐集したコレクションをもとに、1970 年に出身地の島根県安来市に開館しました。日本画、陶芸、童画、木彫、漆芸等から成るコレクションのうち、とりわけ近代日本画壇を代表する横山大観の作品は、質・量ともに国内有数のコレクションとして知られています。また、全康の構想のもと、静岡県立浜松工業学校（現：静岡県立浜松工業高等学校）出身の中根金作（1917-1995）が中心となって作庭された広大で美しい日本庭園は、出雲の豊かな自然を借景に四季折々の自然美を表現することで国内外から高く評価されています。

本展では、足立美術館が誇る日本画コレクションの中から、静岡県ゆかりの横山大観（1868-1958）や竹内栖鳳（1864-1942）をはじめ、菱田春草（1874-1911）、上村松園（1875-1949）、橋本関雪（1883-1945）、安田靉彦（1884-1978）など明治期から昭和期にかけて活躍した近代日本画の名手たちの作品を紹介します。

2 会場

浜松市美術館

3 会期

2026年4月4日（土）～5月17日（日）38日間 ※内覧会は4月4日（土）9：10～

4 開館時間

午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）

5 休館日

月曜日（ただし、祝日のときはその翌日）

6 観覧料

一般：1,800円（前売・団体20名以上：1,440円、団体80名以上：1,080円）

高大専・70歳以上：1,000円（団体20名以上：800円、団体80名以上：600円）

小・中学生：無料

7 主催

浜松市、静岡第一テレビ

8 イベント（予定）

ギャラリートーク、講演会、ワークショップ等

企画書（案）

「いま、私は現代アートと出会う」

草間彌生、奈良美智、村上隆、アンディ・ウォーホル、バンクシー…

1 開催趣旨

本展は、ある一人のコレクターによる膨大な現代アートコレクションから厳選し、草間彌生や奈良美智、村上隆、ウォーホル、バンクシーなど戦後のアートシーンを牽引してきた39人の作家の作品約70点を紹介する、浜松市美術館初の大規模な現代アート展である。

美術館で作品を鑑賞する体験は、しばしば私たちの感情を揺さぶり、思いがけない感覚や記憶を呼び起こすことがある。本展は、そうした「作品との出会い」に注目し、国内外の多様な表現をとおして現代アートの魅力を紹介するものである。

各章では、2メートルを優に超える作品の持つ迫力や、光や反射などによって空間そのものを変化させる展示など、現代アートならではの全身で体感する作品も多く出品する。作品の前に立ち、色や光に包まれることで、視覚だけでなく身体的・感覚的に現代アートを楽しむ機会を創出する。

現代アートはしばしば難解なものと思えらるが、色やかたち、光や風景といったシンプルでわかりやすいキーワードで構成することで、現代アートに馴染みのない方や子どもたちでも、作品との対話から思いを巡らせ、アートの楽しみ方そのものを発見する場となることを目指す。

本展は当館の会期終了後、宮城県美術館や長崎県美術館への巡回を予定している。浜松発の企画展が全国を巡回することで、当館の活動を広く全国に発信する機会となるだろう。

2 会場

浜松市美術館

3 会期

令和8年6月20日（土）～令和8年8月30日（日）（66日間）※内覧会は6月19日（金）

4 開館時間

午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）

5 休館日

月曜日（ただし、祝日のときはその翌日）※8月は無休

6 観覧料

一般：1,600円（前売・団体20名以上：1,280円、団体80名以上：960円）

高大専・70歳以上：800円（団体20名以上：640円、団体80名以上：480円）

小・中学生：無料

7 主催

浜松市、中日新聞東海本社、テレビ静岡

8 入場見込

18,750人（有料入場者率80%）

9 イベント（予定）

ギャラリートーク、講演会、ワークショップ

みほとけのキセキⅢ－三・遠・駿 神仏オールスター☆－（仮）
企画書（案）

1 開催趣旨

浜松市美術館では、浜名湖を中心とした遠州・東三河地域に伝来する仏像（主に平安・鎌倉時代）に関する調査研究を継続しており、その成果を「みほとけのキセキ－遠州・三河の寺宝展－」（令和3年）、「みほとけのキセキⅡ－遠州・三河のしられざる祈り－」（令和5年）にて、約50躯の作例を展示することを通して、広く紹介してきた。これまでの調査研究、展覧会を通して、遠州地域と東三河地域の仏教文化圏の近しさ、伝来する仏像の類似性・親和性が浮き彫りになってきた。一方で、「みほとけのキセキⅡ－遠州・三河のしられざる祈り－」にて開催したシンポジウム「仏像フロンティア－遠州地域の仏教文化圏－」では、遠州地域と同じ静岡県駿河地域、伊豆地域の文教文化圏の在り様や伝来する仏像の傾向の相違が多面的・多角的に指摘された。本展では、遠州地域（浜松、磐田、袋井、湖西）と東三河地域（豊橋、新城）の国指定重要文化財や県指定文化財の作例に加え、継続的な調査研究により近年新たに発見されたり価値が見いだされたりした作例、価値の再評価がなされた作例を積極的に取り上げる。そして、「みほとけのキセキ」シリーズでは初となる駿河地域（主に静岡市域）にも調査研究のフィールドを広げ、遠州・三河地域の仏像と駿河地域伝来の仏像を併せて展示することで、その特徴を比較検討したい。

2 会場

浜松市美術館

3 会期

令和8年10月10日（土）～令和8年12月6日（51日）※内覧会は10月9日（金）

4 開館時間

午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）

5 休館日

月曜日（ただし、祝日のときはその翌日）

6 観覧料

一般：1,800円（前売・団体20名以上：1,440円、団体80名以上：1,080円）

高大専・70歳以上：1,000円（団体20名以上：800円、団体80名以上：600円）

小・中学生：無料

7 主催

浜松市、中日新聞東海本社、テレビ静岡

8 入場見込

25,000人（有料入場者率80%）

9 イベント（予定）

ギャラリートーク、講演会、研修会、シンポジウム、ワークショップ等開催予定

浜松市秋野不矩美術館
特別展 中谷ミチコ 影とぼっこり
開催概要

浜松市秋野不矩美術館では、下記のとおり特別展「中谷ミチコ 影とぼっこり」を開催いたします。
石膏を用いた作品で知られる中谷ミチコ（1981-）。近年では、東京メトロ虎ノ門駅に設置されたパブリックアートを手掛けるなど、精力的に活動を続ける彫刻家です。凹凸が反転した作品は、一見すると浮彫のように見えますが、ある時、それは存在しないくぼみだと気付きます。視覚の混乱により存在と不在が交錯するよう感じられる作品は「不在の彫刻」とも呼ばれ、見る者に存在することの不確かさを問いかけると同時に、目に見えるものを超えた存在をも感じさせます。存在しないものを表現することは、建物や風景を描きながらも人の気配を感じさせる秋野不矩（1908-2001）の《廃墟》シリーズなどにも通じます。

本展では「不在」や「気配」といった両者の共通点をキーワードに、《影、魚をねかしつける》などの中谷の大作に加え、この展覧会のために制作された新作や中谷が彫刻制作とは別に日常の中で描くドローイングを、当館が所蔵する秋野の代表作とあわせて展示します。中谷の彫刻作品と秋野の絵画作品、そして特色ある当館の建築が響き合う展覧会は、それぞれの魅力をさらに引き出した唯一無二の空間となるとともに、「存在」ということを改めて問い、感じる機会となるでしょう。

記

展覧会名：特別展 中谷ミチコ 影とぼっこり

会場：浜松市秋野不矩美術館（〒431-3314 静岡県浜松市天竜区二俣町二俣130）

会期：2026年7月4日（土）～ 8月23日（日） 44日間

休館日：月曜日、但し7月20日（月・祝）開館、7月21日（火）休館

開館時間：9：30～17：00（入館は16：30まで）

観覧料：一般1,000(800)円、70歳以上・大学生・専門学校生・高校生500(400)円、中学生以下無料

※（ ）内は20名以上の団体料金

※障害者手帳等所持者及び介護者1名は無料

主催：浜松市、(公財)浜松市文化振興財団

共催：中日新聞東海本社（予定）

協賛：遠鉄グループ、天竜浜名湖鉄道株式会社(予定)

後援：K-MIX(予定)

【連絡先】 浜松市秋野不矩美術館 <学芸員> 田中宏子
〒431-3314 静岡県浜松市天竜区二俣町二俣130
TEL:053-922-0315 / FAX:053-922-0316

特別展

猫愛に溺れる

—秋野不矩から現代作家による猫たち—

開催概要（案）

浜松市秋野不矩美術館では、下記のとおり特別展「猫愛に溺れる—秋野不矩から現代作家による猫たち—」を開催いたします。

人間にとって最も身近な動物の一つ「猫」。古くから人は猫とともに暮らし、その愛らしい表情やしぐさ、柔らかな毛並み、しなやかな身のこなしや自由気ままな性格に魅了されてきました。

本展は、日本画家・秋野不矩と「猫」との関わりを起点に、近現代日本美術における猫表現の多様性と魅力を紹介する展覧会です。

秋野不矩（1908-2001）は、インドを描いた多くの作品で知られる一方、日常の身近な存在にも温かなまなざしを向け、猫と暮らし猫を主題とした作品や素描、文章などを残しています。そこには、制作の合間に寄り添う存在として、観察の対象として、また生活の一部としての猫の姿が率直に捉えられ、秋野不矩の人柄や創作への姿勢をうかがうことができます。

秋野による猫作品や資料をはじめ、本展では秋野と同世代以降の作家が描いた猫作品を3つのコレクションより紹介します。箱根・芦ノ湖 成川美術館と郷さくら美術館の所蔵品からは、昭和から現代にいたる日本画家たちによる、日本画における猫表現の広がりや時代性をご覧いただけます。そして出版『猫まみれ』で知られる「招き猫亭コレクション」（現・藤沢市コレクション）からは、近現代のさまざまな画家による猫作品を紹介します。ジャンルや作風の異なる作家たちが捉えた猫の姿は、自由でユーモラス、時に鋭く、人と猫との関係を物語ります。

総勢約40名の作家による猫たちを通して、人と猫との尽きることのない関係の豊かさをぜひお楽しみください。

記

展覧会名：猫愛に溺れる—秋野不矩から現代作家による猫たち—

会 場：浜松市秋野不矩美術館（〒431-3314 静岡県浜松市天竜区二俣町二俣130）

会 期：2026年10月10日（土）～ 11月23日（月・祝）39日間

休 館 日：月曜日、但し10/12・11/23（月・祝）開館、10/13（火）休館

開館時間：午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）

観 覧 料：一般1,000（800）円、大学生・専門学校生・高校生500（400）円、中学生以下無料

※（ ）内は20名以上の団体料金 ※70歳以上の方は半額

※障害者手帳等所持者及びその介護者1名は無料

主 催：浜松市、（公財）浜松市文化振興財団

共 催：静岡新聞社・静岡放送（予定）

協 賛：遠鉄グループ、天竜浜名湖鉄道株式会社（予定）

協 力：未定

企画協力：株式会社アルテ舎

出品作家：秋野不矩、加山又造、竹内浩一、堀文子、齋正機、前本利彦ほか（予定、順不同）

以上

【連絡先】 浜松市秋野不矩美術館 <学芸員> 新海 未帆
〒431-3314 静岡県浜松市天竜区二俣町二俣130
TEL:053-922-0315 / FAX:053-922-0316
株式会社アルテ舎 担当：遠藤 郁子
〒156-0056 東京都世田谷区八幡山3-33-1-202
TEL:090-3436-4774

開催概要（案）

京の百景

浜松市秋野不矩美術館では、下記のとおり特別展「京の百景」を開催いたします。

古くから日本の都として栄えてきた京都。この地では日本の伝統的な美意識が根付き、日常的な風景から伝統行事にいたるまで、さまざまところで趣深い情景を目にすることができます。京都府ではこの美しい京都の姿を後世に伝えるため、1971（昭和46）～1973（昭和48）年にかけて京都ゆかりの日本画家に作品制作を委嘱しました。その中から、本展では京都を拠点に活躍した秋野不矩が手掛けた《平安神宮》や、上村松篁（うへむらしょうこう）、宇田荻邨（うだてきそん）、小野竹喬（おのちつきょう）、堂本印象（どうもといんしょう）、広田多津（ひろたたづ）、山口華楊（やまぐちかよう）など、画壇を代表する作家たちが描いた選りすぐりの作品約50点を紹介いたします。あわせて、秋野不矩が故郷の民俗芸能で使用される表情豊かな面に取材した作品や日本の昔話をテーマとして制作した絵本原画など、日本を題材に描いた作品も展示いたします。

京都に縁がある作家によって描かれた作品は、私たちに奥深い京都の風情を教えてくれます。この機会に多種多様な表情を見せる京都の魅力をご堪能ください。

※出品作家は変更となる場合がございます。

記

展覧会名：特別展 京の百景

会 場：浜松市秋野不矩美術館（〒431-3314 静岡県浜松市天竜区二俣町二俣130）

会 期：2027年1月23日（土）～ 3月14日（日）44日間

休 館 日：月曜日

開館時間：9：30～17：00（入館は16：30まで）

観 覧 料：一般1,000（800）円、70歳以上・大学生・専門学校生・高校生500（400）円、
中学生以下無料

※（ ）内は有料20名以上の団体料金

※障害者手帳等所持者及び介護者1名は無料

主 催：浜松市、（公財）浜松市文化振興財団

共 催：中日新聞東海本社（予定）

協 賛：遠鉄グループ、天竜浜名湖鉄道株式会社（予定）

協 力：京都文化博物館（予定）

後 援：K-MIX（予定）

企画協力：株式会社青幻舎プロモーション

以上

【連絡先】 浜松市秋野不矩美術館 <学芸員> 田中宏子
〒431-3314 静岡県浜松市天竜区二俣町二俣130
TEL:053-922-0315 / FAX:053-922-0316

株式会社青幻舎プロモーション 担当：田中壮平
〒604-8136 京都府京都市中京区三条通烏丸東入梅忠町9-1
TEL:075-252-8780 / FAX:075-252-6770

浜松市秋野不矩美術館 令和8年度 所蔵品展テーマ

《慈愛の心》～ 慈・悲・喜・捨・空 ～

本年度の所蔵品展は、秋野不矩表現の根底を為す「慈愛の心」をキーワードに展開いたします。作家の心の内に沸き起こる「温かて優しいまなざし」に目を向けつつ、作家の生き様、表現への飽くなき追求心、それを支える作家の豊かな心を顕彰します。

自然風景や自然物、廃墟、民家、寺院等をどのように捉え、どんな思いが込められているのか、五つの視点に沿って秋野不矩の心を多面的・多角的に紹介していきます。

併せて、絵本原画や遺品の素描等を幅広く紹介し、秋野不矩の本画と共に画業及び作家自身の人間性や作品のより深い理解につなげます。

<所蔵品展《慈愛の心》各テーマ>

所蔵品展Ⅰ ～慈～：対象をやさしく温かく愛おしむ心

○不矩の優しさや温かさが感じられる表現に焦点をあて、色や形、線・構図等から創作の心根を探ります。

所蔵品展Ⅱ ～悲～：共感をもって対象に寄り添う心

○不矩が対象にどのような価値を見出し共感のまなざしを向けていたのか、不矩の心眼を捉えます。

所蔵品展Ⅲ ～喜～：周囲の出来事や現象を自分事として受け止め喜びを見出す心

○廃墟や遺跡の表現を通して、当時の人たちの思いに寄り添おうとした不矩の心の機微に迫ります。

所蔵品展Ⅳ ～捨～：表面的な変化や感情に囚われず、広い視野で洞察しようとする心

○常に自己の気持ちと真摯に向き合い真理を追求した不矩の表現の根幹を見極めます。

所蔵品展Ⅴ ～空～：相互の繋がりや因果から、世の理を自身の気持ちや感覚を通して感受する心

○作品中に存在する静謐と均衡の表現から、不矩のゆるぎない「観」を洞察します。

※展示予定作品は予告なしに変更する場合があります。

回	所蔵品展テーマ	開催時期	主な展示予定作品
1	慈愛の心Ⅰ ～ 慈 ～	4/1 ～5/6	いっすんぼうし(絵本)、沼、糸、女人群像 ラージャラーニー寺院Ⅱ、白桃 他
2	慈愛の心Ⅱ ～ 悲 ～	5/26～6/21	暮れる海、アフガニスタン風景、渡河、 ガンガー1999、テラコッタの寺院 他
3	慈愛の心Ⅲ ～ 喜 ～	9/1 ～9/30	インド女性、女神ヤクシニー、地の折り 海辺のコテージ、廃墟Ⅱ、カジュラホ他
4	慈愛の心Ⅳ ～ 捨 ～	12/1～1/11	平原、土の家、三菩薩像、古面シリーズ 九曜星、雨雲 1998、室戸岬、菊 他
5	慈愛の心Ⅴ ～ 空 ～	3/20～	かみながひめ(絵本)、黄土、砂漠の街、 土の家(生命の樹)、ウダヤギリ僧房Ⅰ・Ⅱ 他